

沖縄ゐのはな会

古謝 景春

千葉大学医学部創立135周年によせて

ゐのはな同窓会の皆様、ご無沙汰いたしております。日本最南端の地沖縄から千葉大学医学部創立135周年にあたり、県の同窓会員一同に代わりまして心からお祝いを申し上げます。135年という本邦でも有数の歴史を持つ千葉大学医学部ゐのはな会の一員として大変誇りに思います。改めまして伝統を築いて頂きましたこれまでの先輩諸兄の御努力に対し厚く御礼を申し上げます。ちょうど私が学生の頃、創立85周年記念式典が盛大に施行されましたが、あれから早くも50年が経過し、「光陰矢のごとし。少年老いやすく、学成りがたし」を実感いたします。さて記念誌発行にあたり、沖縄県ゐのはな会の成り立ちから現況について述べ、また会員の先生方のこれまでの動向についても簡単にご紹介したいと思っております。

沖縄ゐのはな会の発足は昭和46年頃から、千葉大学の全学部出身者で年1回定期的に会合をもったのが始まりとされております。しばらくして医学部出身者のみによる「沖縄ゐのはな会」が正式に発足し、初代会長に長田紀春先生（医専昭和17年卒）が就任されております。先生は医学卒業後軍医として招集され、沖縄激戦区で戦争を体験されており、現在でも当時の多くの悲惨な史実を語り継いでおられます。終戦直後県内病院に勤務された後、東京大学小児科医局で研修を終え那覇市で長田小児科を開業されました。藤江良雄先生（医専昭和26年卒）は小児科がご専門で早くから離島医療等地域医療にご尽力されました。岩垂信先生（昭和26年卒）は千葉社会保険中央病院をご退官の後平成16年に沖縄に移住されましたが、お元気で時々沖縄ゐのはな会へもご出席されております。真壁仁先生（医専昭和27年卒）は、祖国復帰前の沖縄県の医療行政に携わり、また沖縄県立中部病院の副院長などを歴任されました。先生の母校ゐのはなへの思いは強く、沖縄ゐのはな会発足に大きく貢献され、現在もご健康で同窓会・親睦ゴルフ大会に欠かさず出席されております。長田先生に続く沖縄ゐのはな会の二代目会長は安里洋先生（昭和33年卒）であります。先生は千葉大学産婦人科に入局し、昭和39年に沖縄市で開業さ

れました。当時数少ない産婦人科医として多くの患者さんの治療・手術に多忙を極めたとのことであります。宮里義弘先生（昭和37年卒）は千葉大学小児科医局を経て沖縄に帰られ、名護病院勤務の後昭和45年に那覇市で開業されました。先生は先輩・後輩との交流が深く、沖縄ゐのはな会の設立の最大の功労者であり、第三代目の会長を勤めました。

嶺井進先生（昭和37年卒）は、宮里先生と共に熱心に同窓会活動にあたられ、代四代目のゐのはな会会長に就任されております。先生は千葉大学で脳神経外科を研修され、昭和46年沖縄県初の脳神経外科専門医として県立中部病院初代脳外科部長に赴任されております。また、先生は昭和51年に浦添市で嶺井脳神経外科病院を開設され、後に他の診療科の充実に伴い嶺井第一病院と変更されております。昭和49年に琉球大学医学部附属病院の前身である保健学部附属病院の精神科・神経科の科長として吉川武彦先生（昭和36年卒）が赴任されております。先生は翌年琉球大学教育学部特殊教育学科教授に就任されましたが、沖縄ゐのはな会のゐのはな会同窓会報への紹介（昭和54年12月10日掲載）などご活躍されております。先生は昭和58年に東京に帰られ、後に国立精神神経センター精神保健研究所の所長に栄転されております。

私は昭和40年インターン終了後、第一外科・国立千葉病院を経て、昭和51年に琉球大学付属病院に勤務し、心臓血管外科をスタートさせましたが、平成20年から嶺井先生の後を受けて五代目の沖縄ゐのはな会の会長に指名され、微力ながら会員の親睦に努めております。比嘉英麿先生（昭和42年卒）は医学部卒業後私と同じ国立千葉病院で外科・整形外科医局で研修され、昭和52年に県立那覇病院整形外科に赴任されました。先生は昭和54年にお兄さんの比嘉国郎先生（産婦人科、後の沖縄県医師会長）とともに、豊見城中央病院を設立され、県内有数の総合病院に充実発展させております。

さて、琉球大学医学部は全国最後に設立された医学部ではありますが、昭和54年に医学部準備室が設置され、小張一峯先生（昭和15年卒）が初代病院長予定者として赴任されました。先生は熱帯医学がご専門で、昭和56年の医学部一期生の受け入れから附属

第4章 同窓の発展

病院院長兼第一内科教授としてご活躍されております。先生は同門の絆を大事にされ、沖縄みのはな会にも都合の許す限り出席され、これまでのWHO等での豊富な体験談をお話されておりました。

医学部開設1年後の昭和57年に放射線科教授として、中野政雄先生（昭和30年卒）が千葉大学から赴任されております。当時沖縄県内では放射線治療の専門医は少なく、先生はご専門を通して、広く地域医療に貢献されております。昭和43年卒業の仲尾清先生と堀川義文先生は卒業と同時に沖縄に帰られ、お二人とも県立中部病院外科を経て米国に渡りさらに外科研修を続けました。仲尾先生は昭和60年に与儀裕先生（昭和45年卒、千葉大学第一内科）とともに、県南部の中核病院として与那原中央病院を立ち上げて現在に至っております。堀川先生は昭和63年に沖縄中部徳洲会病院を立ち上げ、さらに南部徳洲会病院開設にも参画し病院長を歴任されております。先生は「急性腹症のCT」をライフワークとされて、名著を著し今日でもその指導に多忙を極めております。

平成9年に脳腫瘍の研究を主な専門分野とする吉井興志彦先生（昭和44年卒）が筑波大学から琉球大学脳神経外科教授として着任されました。先生は附属病院手術部長・医学科長等を歴任し、平成21年に退官され、現在筑波記念病院の脳脊髄神経センター長としてとしてご活躍中であります。同年に私も琉球大学第二外科教授を拝命し、附属病院長・副学長（理事）を経て平成17年に退官し29年間の琉球大学勤務を終えました。高良宏明先生（昭和44年卒）は千葉大学整形外科医局から、昭和51年に琉球大学附属病院へ転勤いたしました。先生は昭和62年から、琉球大学教授兼健康管理センター長を平成20年に退官されるまで勤めました。同じく昭和44年卒業の落合靖男先生は小児科がご専門で、昭和53年に沖縄肢体不自由児施設に移られ、後に沖縄小児発達センター長に就任されております。真栄城弘史先生（昭和44年卒）は卒業後沖縄に帰られ、内科医として勤務されており、お兄さんの真栄城尚史先生（昭和41年卒）は慶応大学・埼玉医科大学精神科を経て昭和62年に沖縄に帰られ、精神科医として勤務されております。与那嶺（津山）和子先生（昭和46年卒）は卒業後沖縄に帰られ、内科医として活躍されております。

昭和47年卒業の方は3人おられます。大久保和明先生は沖縄県立中部病院における研修の後、米国で外科研修を終え米国外科専門医を取得されております。先生は沖縄県立北部病院院長を経て、平成21年

から県立南部医療センター長としてご活躍中であります。金城（赤嶺）マサ子先生、早くから沖縄県の医療行政に携わり、これまで県内保健所長等を歴任されております。上江洲邦弘先生は県立南部病院整形外科部長の傍ら、沖縄みのはな会のために大いに尽力されましたが、4年前に虚血性心疾患で急死されました。改めて心からご冥福をお祈りいたします。伊江朝次先生（昭和49年卒）は沖縄県立中部病院外科スタッフの後、県立八重山病院の院長に就任し、地域医療の最先端で活躍中であります。当銘正彦先生（昭和50年卒）は県立中部病院内科スタッフを経て、県立南部医療センターの副院長を務め、沖縄みのはな会・ゴルフコンペに積極的に参加し、会には欠かせないメンバーのお一人です。同じく50年卒の宮平守博先生は内科医として、豊見城中央病院に勤務されております。

昭和51年卒業は4人おられます。上原哲夫先生は県立中部病院で研修を終え、現在外科部長として、また我那覇仁先生は同病院小児科部長を経て、現在県立南部医療センター周産母子センター長として活躍されております。

中山朝行先生は千葉大学泌尿器科から豊見城中央病院へ移られ、泌尿器科部長を経て、現在南部病院院長になられており、また赤嶺正裕先生は千葉大学産婦人科から沖縄へ帰り、平成2年に浦添市で開業されております。

昭和52年卒業の宮城裕之先生は沖縄赤十字病院の小児科部長であり、同じく沖縄赤十字病院外科部長の大嶺靖先生（昭和57年卒）とお二人で、現在沖縄みのはな会の幹事を務めて頂いております。ご多忙のなかご尽力頂いておりますお二人に改めて深く感謝いたします。同じく52年卒業の嘉川宗秀は現在大浜第一病院の泌尿器科部長をされております。また、52年卒業の兵頭明夫先生は筑波大学から、琉球大学脳神経外科（吉井教授）の助教授に赴任された後、平成20年に獨協医科大学越谷病院の脳神経外科主任教授に栄転されました。今後のご活躍を期待したいと思います。山城豊先生（昭和53年卒）は千葉大学泌尿器科から豊見城中央病院へ転勤の後、豊見城市で開業されております。先生には年に数回行われる沖縄みのはな会親睦ゴルフコンペの貴重な幹事役を引き受けて頂いております。

潮平芳樹先生（昭和55年卒）は県立中部病院で卒業研修を受け、各県立病院勤務の後、豊見城中央病院の内科部長として活躍されており、同じく55年卒業の宮城武篤先生も同病院泌尿器科に勤務されております。昭和56年卒業の喜屋武邦雄先生は千葉大学

呼吸器内科から沖縄に帰られ、また仲宗根安樹先生は県内で内科勤務医を経て、いずれも那覇市で開業されております。昭和58年卒業の崎山八郎先生は2年間の卒後研修の後医療行政に携わり、県庁・保健所等に勤務され県民の健康維持・環境整備に邁進されております。永吉盛司先生（昭和63年卒）は琉球大学第二外科を経て、那覇市立病院に勤務されております。その他伊佐眞之先生（昭和62年卒、県立北部病院小児科）、井上博先生（平成8年卒、南山病院、精神科）がおられます。また、琉球大学医学部放射線科には中野名誉教授のお弟子さんの戸板孝文先生（昭和63年卒）と小川和彦先生（平成3年卒）が、県内では貴重な放射線治療医としてご活躍中であります。清水健先生（平成4年卒）は東京女子医

大消化器内科を経て、浦添市で開業されております。

以上沖縄るのはな会の創設の頃から現在までの活動状況・会員の動向について、簡単にご紹介いたしました。同窓会は名簿上総勢50名であります。メンバーの多くが国費または契約学生の頃の先生方であり、若い先生方が少なく同窓会会員も高齢化の傾向です。年1回の会員親睦会への出席者は20名程度ですが、同窓会の良さは母校るのはなを思いつつ先輩後輩が気楽に話しあえる点にあるかと思えます。この絆を大切にして沖縄のはな会を末永く引き継いでいきたいと考えておりますので、全国の同窓会の皆様どうぞよろしくお願い致します。

（こじゃ かげはる）